

出雲医療看護 専門学校 新聞

地域教育関連情報

中学校・高等学校のクラブ顧問教員対象 第二回スポーツ医科学セミナーを開催

中学校・高等学校のクラブ顧問教員を対象としたスポーツ医科学セミナーを七月四日に開催した。このセミナーの開催にあたっては出雲市との包括的連携協定締結が大きな原動力となっている。

出雲医療看護専門学校は出雲市との包括的連携協定を締結している。この協定の目的は出雲市と当校が連携協力し相互の発展に寄与することとしており、その具体的な内容として「教育・文化の振興に関する事項」がある。今回のセミナーはこの教育に関する事項について焦点を当て、日ごろから生徒指導に尽力されているクラブ顧問教員の方々に役立てただけるよう企画し開催に至った。

講師は出雲市民病院で理学療法士として活躍されている妹尾翼先生。妹尾先生は日本体育協会アスレティックトレーナーを取得されており、各スポーツ外傷指導など幅広い分野で活躍。「熱中症対策と部位別の応急処置をテーマに講義と実技を合わせた形式でセミナーを開催した。

現場のクラブ顧問に求められる 「熱中症対策と部位別の応急処置」



部活動においては専属のスクールトレーナーが常勤しているケースは少なく、代わりにクラブ顧問教員の方々が処置を行うことが多い。そのため傷病者が発生した際の対応フローチャートを印刷し常に目に入るよう掲示・携帯することが緊急時の救急処置を正しく行う第一歩だ。救急処置内容によつてその後の傷病者の状態が大きく左右されるため、適切な処置を実施することが重要。また大会などの際には規模に合わせた傷害を想定し必要物品の準備と事前シミュレーションを行う、傷病者をスムーズに医療機関へ搬送できるよう近隣医療機関の把握を行うなど緊急体制確立が求められる。



▼ポイント(RICE処置)▲
RICE処置とはRest(安静)、Ice(冷却)・Compression(圧迫)・Elevation(挙上)の頭文字を用いた外傷に対する代表的な応急処置である。打撲や捻挫などスポーツでよく起こる怪我の多くに対応でき、内出血や腫れ、痛みを抑えるのに効果的で早期の回復も見込める。しかし冷却を行う際には凍傷のリスクもあり、また寒冷アレルギーやレイノー症、糖尿病の方には禁忌であり注意が必要だ。

「次回も是非参加したい」 他の教員にも参加を促す反応も

参加した教員の方からは「アイスバックの作り方は指導者だけでなくマネージャーにも教えてやりたい」「熱中症の予防法だけでなく体内でのメカニズムについても理解を深めることができた」「肉離れや捻挫など症状に合わせた具体的な処置方法を把握している教員は少ないので、こういった研修に積極的に参加させたい」といった声があった。

講師の妹尾先生は、なでしこリーグ参入を目指す島根県出雲市の女子サッカークラブチームデイトゥサ出雲のコーチや出雲市と連携しスポーツ外傷評価シート(の作成を企画している。これはスポーツに関わる全ての人が統一した認識のもとに最悪の事態を想定し的確に処置対応することを目指すとしており、出血、骨折、脱臼、熱中症などの症状に合わせ



た処置を確認できるフローチャート化されたシート。「出雲市をはじめとして島根県全域で誰もが安心安全にスポーツを楽しむ環境を作り上げることが将来的な目標」と妹尾先生は力強く宣言し、参加した教員の方々からも後押しする声が続出した。梅雨らしい天候の中開催した第一回スポーツ医科学セミナーだが参加した教員の方々は終了後とても清々しい表情を見せていた。熱中症対策と部位別の応急処置について理解を深め、またお互いに情報交換を行う場面もあり「参加できてよかった」との言葉が聞くことが多くあった。

出雲医療看護専門学校は今後もスポーツ医科学セミナーの開催を企画している。次回、スポーツ医科学セミナーは平成二十九年九月二十九日(金)に開催予定としている。